

日本発達心理学会 2019年度 国際ワークショップ・公開講演会 報告 公開講演会：「ライフコースにおけるイマジネーション：社会文化的心理学 の視点から」

日本発達心理学会国際研究交流委員会・委員長 武藤世良（お茶の水女子大学）

日本発達心理学会では毎年、海外の著名な研究者を講師として招聘して国際ワークショップを開催し、同時期に一般の方々も対象とした公開講演会を開催してきました。2019年度の公開講演会は、講師にスイスのヌーシャテル大学のタニア・ズイットゥン（Tania Zittoun）先生をお迎えし、「ライフコースにおけるイマジネーション：社会文化的心理学の視点から」と題し、2019年11月2日（土）正午より、立命館大学大阪いばらきキャンパスで開催されました。また、公開講演会終了後～4日（月・振替休日）には、同大にて「ループモデルの使い方：イマジネーションと変容」と題した国際ワークショップが開催されました。

今回講演をしてくださったズイットゥン先生は、人生の移行の研究で著名であり、ライフコースにおいてイマジネーションが果たす役割を、社会・文化的心理学の理論を発達や臨床に結びつけて精神的に発信し続けています。今回の講演会は、こうしたズイットゥン先生のイマジネーションに関する理論や最新の研究成果を知る絶好の機会となりました。講演会では、質疑応答の時間も設けられ、ズイットゥン先生と参加者の間で活発な議論が行われました。本報告は、公開講演会の講演内容の逐語録をまとめ直したものであり、当日使用された日本語版のスライドも収録しております。

なお、本講演会は、臨床発達心理士、学校心理士、および臨床心理士の資格更新ポイント研修会として認定され、それぞれ33名、7名、19名の方が、本講演会への参加により各資格更新ポイントを取得されました。

本講演会は、共催機関としての（公財）発達科学研究教育センター（CODER）の助成金支援によって実現したものです。この場を借りまして、本学会の公開講演会に温かいご支援をくださった発達科学研究教育センターに厚く御礼申し上げます。また、同じく共催の日本臨床発達心理士会、立命館大学立命館グローバル・イノベーション研究機構「学融的な人間科学の構築と科学的根拠に基づく対人援助の再編成」にもお力添えをいただきました。記して感謝申し上げます。

最後になりますが、ズイットゥン先生の受け入れ担当を務めてくださった立命館大学のサトウタツヤ先生、関西大学の木戸彩恵先生、当日の講演会の通訳をご担当くださった大阪教育大学の小松孝至先生、スライドを日本語に翻訳してくださった東京大学の鳥山理恵先生をはじめ、お力添え賜りました関係各位と当日の参加者の皆様に改めて御礼申し上げます。ありがとうございました。